

WALD NEWS LETTER

人と環境に優しい木造住宅 建物の劣化を防ぐ決め手
株式会社ヴァルト *Breathability* 〒381-0022 長野市大豆島 5215-1 (大豆島展示場)
Tel.026(268)4355 呼吸性能「プレサビリティ」 http://wald-inc.jp/ 長野ヴァルト 検索



催しのお知らせ

今回二つの見学会は双方とも築約10年の住まいです。断熱性能はもちろんのこと、外観室内の雰囲気も経年を感じさせないモダンな雰囲気を保っています。流行に左右されにくいヴァルトの家の特長です。両方とも予約制となっておりますが、当日また間際でも結構です。お気軽にお問い合わせください。

■ OB 宅見学会

約10年前に弊社の設計施工により建築(2008年)されたお宅の見学会です。お施主のこだわりキッチン、リビングダイニングが総吹き抜け、など見どころがたくさんのお宅です。

そして今回、お施主のご協力により『プロと一緒に片づけた階段下の収納内』も見学できます。

片づけのプロって実際どんな風にやってくれるの?気になる方は、ぜひお越しください!!

OB 宅見学会【予約制】

会場：長野市高田
期日：平成30年7月7・8日(土・日)
時間：10:00～16:00
収納のプロ「トトノエ堂」の収納イベントと同時開催

▼ 長野市高田 OB 邸見学会会場案内地図



見学会当日臨時駐車場を用意しています、ご利用ください。

■ 川中島オープンハウス

こちらも2009年築と、今年で築9年となる住宅です。太陽光発電、太陽光熱利用の給湯システム、地中熱ヒートポンプを冷暖房に利用、などを駆使し、高い省エネ性能と、安全で快適な室内環境を維持しています。

川中島オープンハウス【予約制】

会場：長野市四ツ屋
期日：平成30年7月14・15日(土・日)
時間：10:00～17:00

下の写真は新築当時の様子です



下の写真は新築当時の様子です



最近の住まいづくり

前回は、住まいづくりに大事な、目標の立て方の例として、『テーマを持つこと』『暮らしのシーンがしっかりとイメージできること』として、①今までの暮らしを振り替える②これからの暮らしに望むことを見つけ③これらをまとめ④未知の要素をヒントとして加え⑤住まいづくりに活かす。と提案させていただき、ヒントをつかまれるきっかけとして、細々と羅列しました。今回後半部分を掲載します。

m. 照明と採光

住まいの見え方は屋外側でも室内側でも、光によって様々に変化します。とても範囲の広いテーマなので、ここでは主に室内側についてふれてみたいと思います。また例外を除き採光と照明は別の問題として分けて考えてみましょう。

◆採光と窓（開口部）

窓（開口部）から入って来る自然の光は、季節によって、一日の時間帯によって、その時の天候によって変化します。そして開口部の大きさ形状や、開口部の場所・位置、窓ガラス・障子・カーテンなどによっても変化させることができます。

やや方向がそれぞれですが、この開口部の形状や使用素材により、建物の基本的な性能である省エネ性能や遮音性・室内側の温熱環境・セキュリティ性などを左右することにも直結するので、大変重要な要素です。関連の重要検討事項として捉えておきましょう。

さて採光の話に戻します。採光を多く取り入れると室内は明るくなり、季節によっては、暖かさの助けとなり、それが過ぎると暑くもなります。逆に採光が不十分な場合、暗くなり日中でも暖かくなり難しく、季節によっては湿気の停滞感などにも関連します。

採光に関連して、開放感、プライバシーの保護、景色、直射日光による功罪などにも考慮が必要です。加えて室内側での作業性（調理・勉強・作業）にも影響しますので部屋の用途によっても十分な計画が大切です。

◆照明

一部を除き夜間に必要な照明です。こちらも大変奥が深く、ライフスタイルや好みのを反映させることのできる楽しみな要素でもあります。最近の光源の種類としては、蛍光灯・白熱灯・LEDなどが主ですがそれぞれの性質・特長を理解し適材適所の使用が望まれます。また設置方法も、間接・直接・局所・調光などこちらも悩ましくまた楽しみでもある検討課題です。

寝室や居間など長く滞在する場所は、複数の照明システムを備え、調光・



使い分けなどを可能にするので、時々の場合にあった明るさや雰囲気を作り出すことが可能になります。

n. リビング

リビングとは、居間、家族が集う場所、時には来客を接待する場所になるかもしれません。住まいの中にリビングが必須というわけでもないのですが、最近の住まいでは間取り全体の中でキッチンとならび家族が集う場所として定番のスペースとなっています。

居心地という観点から考えると、リビングで2人が座る場合、お互いの位置が横並びの場合と対面する場合、そして中間の直角に座り視線が直接交差しないような配置にする場合では、お互いの感じ方（居心地）が変わるといわれています。

また座居（床または畳みに座る）の場合も同様の配置が考えられます。そして双方の場合の距離によっても微妙に居心地（気まずさ）が変化します。

気まずさを感じるエリアをパーソナルスペース（個人空間）といい、パーソナルスペースは人によって違うことや視線の高さ、お互いの位置関係も関係すると言われていました。

視線が高くなるほどパーソナルスペースの距離は長くなり、椅子座居では2.5～3m、座居では1.5mぐらいといわれています。そして、お互いの位置関係が正面より斜めの方が、前方より後方になるほど親近感がでるといいます。座居が基本の和室では人と人の距離が近いほど心地よいと感じ、椅子座が中心の洋室空間ではある程度離れた方が心地よいと感じる傾向があります。部屋が狭くてお互いの距離が取れない場合は視線を低くしたり、お互いの向きをずらすことで心地よさは改善できるというわけです。

一例が茶室で、狭い茶室では床座で視線を低くし、主人と客人が正面に坐ることはなく、必ず視線をそらせるように坐るなどの不快感がでない工夫を凝らされています。

リビングは用途によって考慮すべき要素も変わってくるように思います。その他、近頃のリビングは子ども達の勉強する場所になったり、ホームシアターとしての機能があたり様々です。ご家族の、そして個人のライフスタイルに合わせて自由に楽しく計画してみましょう。

o. 寝室

人生の3分の1は寝ているといわれ、寝室は人生の3分の1を過ごす部屋ということになります。最近は寝るだけでなく寝る前に充実した時間を過ごしたいと思う人が多くなりました。寝室を単に寝るためだけの部屋としてではなく、よりプライベートな「サブリビング」としても考えてみましょう。

寝室といえば畳かベッドか。「サブリビング」という考えからはベッドが向いているかもしれませんが、多様に使える畳の場合はそれが利点でもありますが、逆に専用の部屋になりにくいとも言えます。最近の畳み離れが目立つ状況からすれば、ベッドが受け入れやすく、イ



インテリアも楽しみたいと言
う場合でも都合が良いか
もしれません。



具体的な内装照明など
をイメージしてみましょう。
照明は天井灯とスタンド
灯。実際には天井灯は作業や物を探すとぎくらいでほとんど使わな
いかもしれません。スタンド灯は必須になると思います。さらに調
光付きの間接照明があれば、時々気分に沿った照明環境も楽し
めます。

自慢の中庭を眺めたいなど特別な要望
が無い限り、窓も必要以上に大きく取らな
い方が無難です。窓は通風・採光のため
には重要ですが、大きく取り過ぎると落ち
着いた雰囲気からは離れる方向です。温
か味のあるインテリアにするためには素材
や色も重要ですが、壁量を確保し反響を
抑え気味にし調湿機能を高めることなど
がポイントかと思えます。



p. 書斎・趣味の部屋



最近の建築事例を見ると意外に多くの
人が書斎を作られているようです。

個室タイプとコーナータイプに大きく分け
られます。しかし、専用空間を作るだけのス
ペースが取れないからコーナー使いでよい
という考え方は禁物です。逆に読書に集中
するために個室化してしまってもよいかと
いうと、そうでもありません。家族の気配
もちょっと感じていたいと思う方も、意
外に多いのです。

この感覚は個人差があるので、書斎を使
われる人の性格や家族とのふれあいの
あり方を考えて書斎の位置やカタチを決
めることが大切だということになりそう
です。

自分にとっての書斎のカタチを見つけれ
ないままに安易に書斎を作ってしまった
結果、2~3年後には使い勝手の悪いただ
の物置となってしまうやう、くれぐれも
ご注意を。

q. トイレ

トイレは究極の個室、何人も侵略しが
たい聖域でありながら、利用者を特定
の人に限定しない、他人も容易に入れ
る場所でもあります。独りになれる場
所でありながら家族やその家に来た
人なら誰もが使う場所でもあるとい
うわけです。今日では各階にトイレが
あることはごく普通になっているよう
です。



お客様が使われることを前提にした「
おもてなしトイレ」。衛生的で清潔に
配慮しながら、どこに何を飾るか、
遊び心をおおいに発揮してわが家らし
さを演出したトイレはいかがでしょ
う。

トイレで便座に坐って回りを見回して
いるといった経験はありませんか。
住まい手の住まいづくりへのセンスが
問われ、ちょっと大げ

さですが暮らしている家族の暮らし
ようが見えてしまうかもしれません。
小さな空間ですが、気が抜けない空
間ともいえます。狭いからこそ特長
が出しやすく、わが家の印象を出し
やすい絶好の場所です。お客様が
使いやすく、家族も使いやすい我が
家のトイレを考えてみましょう。でも
、やりすぎも困りもの、ほどほどに。

r. 接客

最近の住まいはちょっと立ち寄るとい
うことができにくいカタチになっ
ているようです。居間や客間に通す
ほどのことではないけれど、立ち話
も・・・という場合、気軽に会
話やお茶を出せる場所が玄関付
近にあると便利かもしれません。

昔の民家や町屋には作業空間として
土間があるのは当たり前でした。土
間は家族同士の、時には住まい手
と来訪者とのコミュニケーション
の場でもありました。「家の中だけ
外」という土間は室内と屋外とを
結ぶ中間領域として、とても便利
な空間です。そうした土間の特徴
を活かして近所の人たちや友人た
ちとの会話や喫茶を楽しむ土間
空間を作ってみてはいかがでしょうか。

気軽に接客できるようにした玄関エ
ントランスに広がる土間空間は、
応接間のように形式ばることもな
く、ご近所の人や友人たちのおし
ゃべりを気兼ねなく楽しみたいと
思っている人にはぴったりな空間
になるかもしれません、このよう
な接客スペースを作ることで、
リビングは家族のための空間とし
てシンプルに計画することができ
るというメリットもあります。

玄関付近接客を計画する場合に何
よりも大切なことは開放的な空
間と雰囲気、そして、もてなすた
めのサービス機能です。開放的とい
っても、気持ちよく会話できるた
めには壁や草木などをうまく配置
して見え隠れする「家の中だけ外
」という土間は室内と屋外とを結
ぶ中間領域な配慮がなされている
ことも大切です。

設備もわが家流が基本ですが、ミニ
サービスカウンターと小さな冷蔵
庫を備えて手軽におもてなしでき
るようにすれば、キッチンまで飲
み物の用意に行くわずらわさもな
くなります。更にトイレが近くに
用意できていれば申し分なしです。
これからはインターネット接続が
できることも会話が弾む大切な
要素かもしれませんね。

シンプルに土間接客を計画するだけ
でなく、ガーデニングと組み合わ
せたテラス風や、子育て世代には
子どもたちが安心して遊べるプレ
イコーナー風。アトリエを兼ねた
趣味の教室、趣味のもので飾った
ギャラリー風、といくらでも出て
きそうです。建築地の立地によっ
てはプチカフェとして営業しよ
うなんて考える方がいらっしやる
かもしれませんね。

こうして考えていくと玄関ポーチ
にベンチを置くだけで玄関を接客
の場にするのもできそうです。さ
あ、あなたはどんな土間接客を
デザインしますか。

s. キッチンとダイニング

キッチンやダイニングなど、いわ
ゆる食空間には料理や食事をす
るだけでなく、家族が集い、コ
ミュニケーションしながら絆を
深める重要な役割があります。そ
のために食空間は居間(リビング)
とセットとして住まいの中心に
配置して考えるのが一般的とな
っています。

キッチンやダイニング計画は単に
シンプルさや合理的な流れ、収納
のしやすさだけでは決まらない
ことが分かります。快適な食空間

を創るためには、利便性や作業性を追求することはとても大切です。

でもより豊かな暮らしのためには、それ以上に楽しみ方・集い方の演出方法や、家族の関わり方をどのように考えるかといったことがもっと重要になります。「誰が」「誰と」「誰に」「どんな料理を」「どのようにもてなしたいか(キッチンとダイニングの関係)」ということと、「食材・食器・調理器具とその収納方法との関わり方」で決まるといってよいでしょう。

そうしたことがわかってくると、キッチンにどんな設備が必要か、収納はどの場所にどれくらい必要か、他の部屋(スペース)とのつながりをどうしたらいいのかが見えてきて、自然に食空間のカタチが表れてきます。

更に食空間は日常生活の場だけでなく、正月や誕生日といったホームパーティや友人知人とのもてなしの場へと変身させることもあるでしょう。仲間と一緒に料理やお菓子を作りたいと思っているならば、作る楽しめるとともに食べる楽しめ満喫できる空間に変身させたいです。そういった特別な日にも十分に対応できる空間づくりを心掛けたいものです。

このようにいつもとは違う出来事への対応方法こそ、わが家流の楽しみやこだわりを大いに発揮したいところであり、豊かな食空間ができるかどうかのポイントですから大切に考えてください。

住まいづくりで、ライフスタイルから発想することを最も要求される場が食空間です。家族みんなが幸せな時間を共有できるような場として、理想の食空間を思い描いてみてください。これから将来の暮らし方までをよく想像しながら、キッチンやダイニングに取り入れる設備機器類や家具、収納など、具体的なものごとについて考えるようにしましょう。

一言で言えば、ハードよりソフトを重視して食空間を考えるということです。暮らし方をイメージし、我が家流の住まいづくりを楽しんでください。

t. キッチン廻りと勝手口

「玄関はお客様を迎える場としてすっきりさせておきたいので、買い物袋を提げて玄関からではなく、勝手口から入りたい」という声をしばしば聞きます。確かに勝手口を使いこなすことは玄関をすっきりさせることにつながりそうです。

かつて家族や来客などの人の出入り口として玄関があり、家事用の出入口として勝手口は玄関の表口に対して裏口とも呼ばれていました。しかし、敷地の狭小化や生活スタイルの変化とともに勝手口のある家は減りつつあります。勝手口の設置場所のほとんどがキッチンのです。他に駐車スペースの近くや、戸締まりの観点からどうしても出入りは玄関だけにしたいという場合などでも、玄関ドアをくぐり直ぐに勝手口に分岐するような配置にすることは可能かもしれません。

キッチン廻りは、住まいの中でも機能的に使用頻度の高い最も大切な場所と言っても過言ではありません。来客時にも対応し易いよう、キッチン廻りをスッキリさせたいという場合には特にパントリー&収納機能が大切になります。検討事項にどのようなものがあるか列挙してみます。



冷蔵庫が最適な位置に置けるか、キッチンの中心部がゴミや買い置き品の仮置き場にならないように、勝手口土間付近にゴミのストック分別スペースを設けてはどうか、その壁周囲に買い置き品ストック棚、普段使わない食器や調理用具を整理して収納可能なように、出入りのしやすさ(買い物袋など多くの手荷物を持ったままで靴の着脱、雨でも出入りしやすいか、濡れた傘の置き場所)使い勝手を考え引き戸でどうかなど。狭くても使い勝手が求められる勝手口廻り、少しの工夫で随分使い勝手が違ってきます。他にも検討事項は幾つもあると思います。ご自身のこれまでの経験に照らし合わせ検討してみてください。



最後は勝手口を出てから、通路上に段差や障害物はないか、通路が長すぎないか、カーポートとのつながりはどうかなども確認しておきたい事柄です。

以下再度次号以降へ、

u. 収納、v. 給湯、w. 地盤と地域特性、x. 敷地への最適化、y. 省エネと創エネ、z. 室内気候と健康・快適、

紙上見学会

▼南面の間口が広い明るく爽やかな室内のお宅。外観では、ほおづえのような化粧造作は家の個性的な印象をみごとに演出しています。建築主の要望がそうさせたのかヴァルトのデザインがしっかり発揮されたのか、全体に木質の暖かさを感じさせながらシャープな印象の家になっています。ヴァルトの特長基本的な省エネ性能、上質な室内環境をそのままに、素晴らしい仕上がりとなりました。

